



稲作情報

適期に中干し・溝切りを

適期中干し作業は、適正な生育量の確保や根の健全化につながるが、品質向上に欠かせない重要な作業です。遅れないよう行いましょう。

中干し

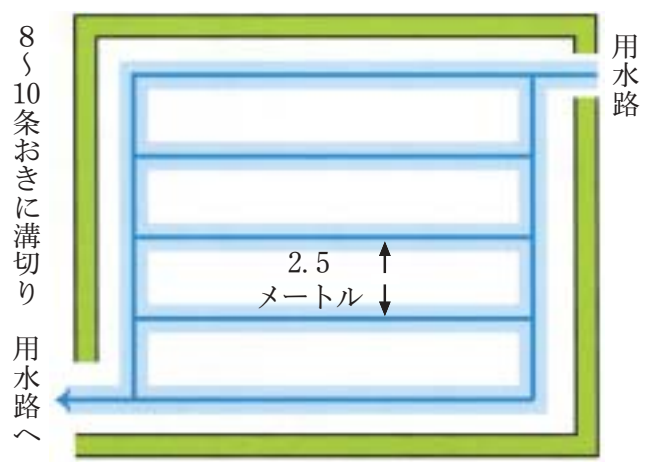
田植後1ヶ月を目安に開始します。全域的に開始がいつも遅れがちなので、早目の実施を心がけましょう。程度は小ヒビが入るまでとし、遅くとも出穂1ヶ月前までに終了しましょう。以降は、飽水管理を徹底しましょう。

溝切り

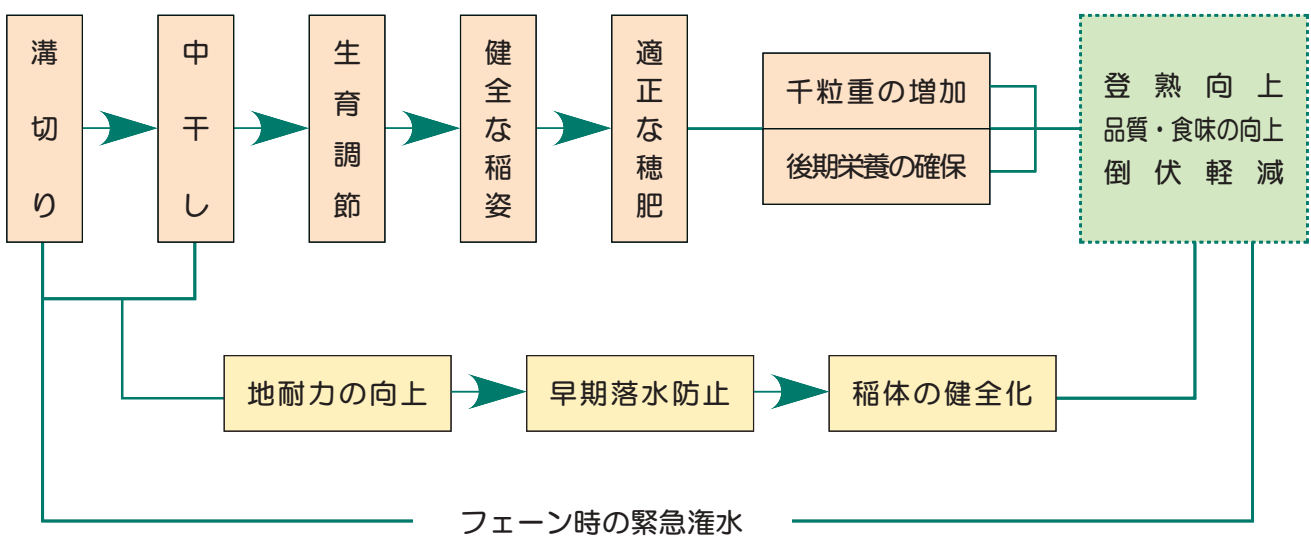
溝切りをすらすらと行うと、ほぼ場内の速やかな排水を促し、中干しをムラなく仕上げるとともに、生育調整効果を高めることが出来ます。また、中干し後の飽水管理やフェーン発生時の緊急かん水が必要な場合にその効果を高めるため、必ず溝切りを行いましょ。

中間追肥

有効茎歩合を高め、健全な稲を作るため、「けい酸加里ブレミア34」または「魚沼ロマングルメエース」を出穂40日前頃(6月下旬)に10^レア当たり20^キ〜40^キ施用しましょう。ケイ酸分及び苦土分により、根の活力向上につながります。



溝切り・中干しの効果



稲作 情報



中干しは適期に確実に実施

1. 中干し開始の目安



○ そろそろ中干しを開始



× 茎数が多く、この状態では遅い

2. 適期中干しの程度

○ヒビが入り始めたらかん水して、過度の土壌乾燥を防ぐ

○中干しは、遅くても出穂の1ヶ月前までに終了する



中干しの強さは、小ヒビが入る程度



乾かしすぎて大ヒビが入ると、
根の切断や発根が抑制される

JA越後おぢや無料情報システムのご案内

このシステムは、インターネット回線を利用して、JA越後おぢや事務局から組合員の携帯電話やパソコンリアルタイムに稲作情報などをメールで配信するシステムです。

同システムのご利用には、お申し込みが必要となります。

詳しくは、営農生産部米穀販売課（☎83-3425）までお問い合わせください。

